

# 瀬戸内海における浜辺の自然・文化・歴史教室

九州大学応用力学研究所

教授 柳 哲 雄

(社)瀬戸内海環境保全協会は(財)福武学術文化振興財団からの助成金を得て、2006年7月17日(月)(海の日)備讃瀬戸において、「瀬戸内海における浜辺の自然・文化・歴史教室」を開催した。

香川県・高松市の協力を得て、事前に行ったこの教室への参加者募集には60名余りの応募があったが、実験施設の関係から30名の親子に限定せざるを得なかったことは残念だった。

当日は9:00に参加者とスタッフが高松駅前集合し、借り上げバスでまず新川・春日川河口干潟に向かった。9:30~

10:45、参加者は5班に分かれ、香川大学農学部が多田教授・一見助教授・大学院生・学部生の指導のもと、スコップ・クマデ・フルイを用いて、アサリ・ゴカイ・アナジャコなど干潟のベントス採取を行った。当初、この後に香川大学農学部の実習船を用いて体験航海を予定していたが、停滞する梅雨前線に吹き込む強風により、船の運航は中止せざるを得なかった。仕方なく、バスで庵治町にある香川大学農学部附属浅海域実験実習施設に向かった。施設に到着後、雨が降り出したので、11:40~12:20早めの昼食をとった。

12:20~13:00、雨も上がったので、実

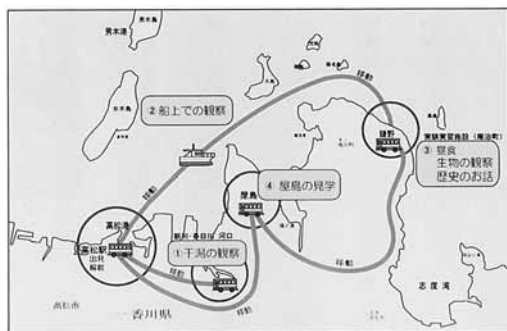


図-1 浜辺の自然・文化・歴史教室 観察行程 (香川県高松市・庵治町・屋島) 平成18年7月17日



写真-1 新川・春日川河口干潟

## ●略歴



1948年 山口県生まれ(やなぎ てつお)  
1972年 京都大学理学部卒業  
1974年 京都大学大学院理学研究科地球物理学専攻修了  
1974年 愛媛大学工学部海洋工学科助手、講師、助教授、教授を経て  
1998年 現職



写真-2 実習船



写真-3 顕微鏡観察

習施設前の港内に停船している実習船の見学と、船上からのプランクトン採取を行った。13:00~14:30実習施設内で、干潟で採取したアサリの摂食実験、ゴカイ・アナジャコの穴掘り実験、顕微鏡を使ってのプランクトン観察などを行った。港内で採取した珪藻、コペポダ、フジツボの幼生などが顕微鏡下で動く様を見て、子供達は歓声を上げていた。

14:30~15:00、九州大学の柳が平家物語に描かれた屋島の合戦の様子は基本的には事実に基づいて描かれていることが、再現した当日の潮汐・潮流の変化から推定できることを話した。その後バスに乗って屋島に向かい、展望台から、屋島の合戦が潮汐・潮流によって、午前・午後と場所を変

えて行われたことが遺跡の分布からわかることを確認した。そして16:30に高松駅前解散した。

今回の浜辺の教室は(社)瀬戸内海環境保全協会が2002~2004年の3年間、日本財団からの助成金を得て、瀬戸内海7カ所で行った「瀬戸内海沿岸域における浜辺の観察教室」に続くもので、自然のみならず、文化・歴史も含めて、瀬戸内海の浜辺を総合的に理解してもらおうという意図のもとに、瀬戸内海研究会も協力して行われた。

参加者へのアンケート結果によれば、平家物語の話は小学生には少し難しかったようだが、中学生や親には新しい知識が得られたと好評であった。今後親子で再び屋島や近くの浜辺を訪れる時、海を見る目がさらに深くなって、より大きな感動が得られるようになることを期待したい。



写真-4 当日の様子を報告する新聞記事